

## ⑤ わかることは かわること

～偏見<sup>へんけん</sup>に気づき向き合う～

友人がハンセン病療養所<sup>りょうよう</sup>の入所者に会いに行くという話を聞いて、同行させてもらうことをお願いしました。ずっとハンセン病問題について直接「学びたい」と思っていたからです。

当日、「失礼なことをしてはいけない」と平常心を保つよう自分に言い聞かせながら訪問しました。入所者の方が「暑いですね、遠いところからよくいらっしゃいました」と冷たい麦茶を出してくれました。その麦茶を飲もうとした時、わたしの心の中で何かが起こり、わたしの動きは一瞬止まってしまったのです。差別<sup>いっしゆん</sup>については勉強してきた…「療養所<sup>りょうよう</sup>の人は完治している」と知ってはいましたが、まだまだ心の中に何か<sup>ひそ</sup>が潜んでいたのです。でも、そのことを気づかれないといけないと必死で平常心を取り戻そうとしました。

その後、いろんな話をしました。テレビ番組のこと、わたしの家族のこと、趣味や特技のこと、そして、昔の歌謡曲<sup>かようきょく</sup>と一緒に口ずさみました。

あっという間に時間が過ぎ、療養所を後にしました。自分を取り繕<sup>つくろ</sup>うことで精いっぱいだったわたしが「肝心<sup>かんじん</sup>な差別<sup>さべつ</sup>について何も聞くことができなかった」と友人にこぼすと、このような話をしてくれました。「差別を受けたつらい話を初対面の人に話せると思う？自分だったらできないなあ。でもきみは、たくさん<sup>おほく</sup>のことを学んだんじゃないかなあ。とてもいい顔をしているよ。今度また、会いに行こうよ」そう言われてみると、確かに何かが変わったのです。わたしの心を包んでいた鎧<sup>よろい</sup>のようなものが取れてすがすがしい気持ちなのです。差別を受けて苦しんで生きてきた人は、特別な人ではなく、わたしと同じ人間なのです。わたしと同じように「幸せになりたい」と願いながら過ごしていたのです。何より自分という人間がどんな一面を持っているかということもよくわかった思い出深い一日となりました。

「学びたい」という気持ちは「わかる」のはじまりです。様々な立場の人との出会いや人の生き方にふれることが、自分の中の偏見に気づききっかけとなります

気づき、わかることによって、見方が変わり、生き方もかわっていくのです

「わかる」ことは「かわる」こと、そして「かえていく」ことにつながっていく…

差別をなくす人として  
一步一步進んでいこう